

発行日：2024年2月



SVPインサイトVol.27

次世代自動車

～世界市場の現状と将来展望～

本レポートは、2023年8月発行の注目市場分析レポートに基づき作成しております。
また、上記レポートは当社会員向けに提供しております。



I. 市場の定義

次世代自動車市場は、CO2排出量削減を目的に開発された、モーター搭載車両が主体です。主な種類にハイブリッド車(HV)、プラグインハイブリッド車(PHV)、電気自動車(EV)、燃料電池車(FCV)が含まれます。日本自動車工業会は、クリーンディーゼル車も次世代自動車に含めていますが、本レポートではこれを除外し、電動車に焦点を当てています。

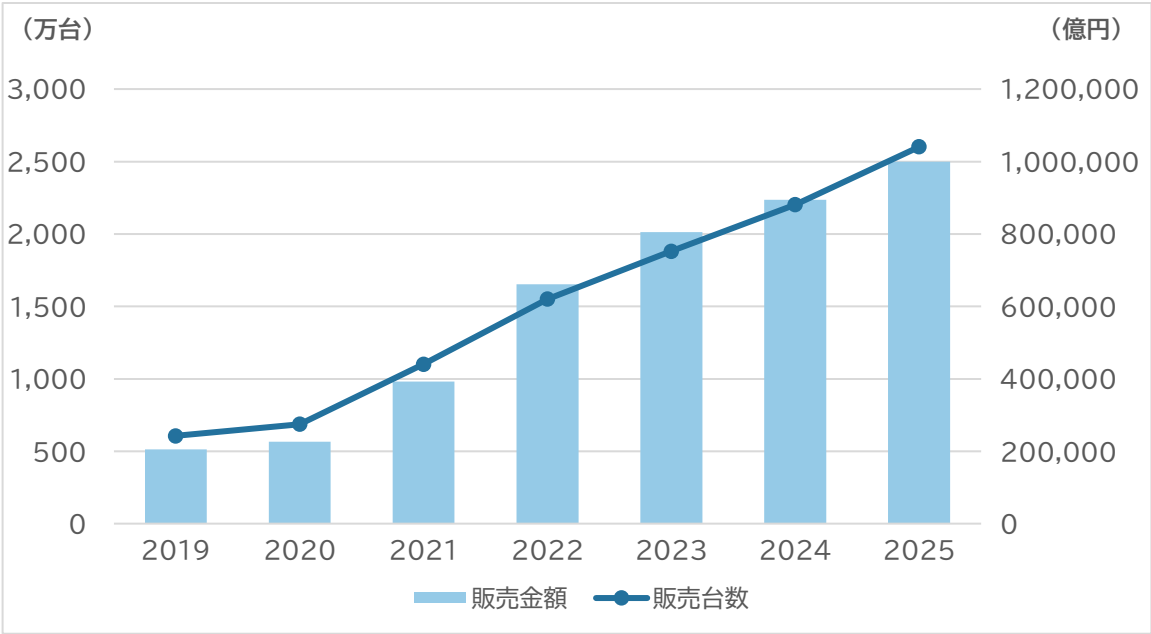
II. 市場動向

次世代自動車市場は、排ガス規制や政府支援に大きく依存しています。2010年代は日本メーカーのHVが主流でしたが、近年、EVの販売が欧州と中国で加速しています。欧州では、ディーゼル車不正操作問題後、EVへのシフトが進み、EUは2035年までにガソリン車・ディーゼル車の販売禁止を発表しました。中国では、EV、PHV、FCVを新エネルギー車(NEV)として推進しています。米国では、2030年までに新車の50%以上を電動化する目標があります。日本はHVの普及が進んでいますが、EVの普及は遅れており、今後の増加が予測されます。

III. 市場規模・予測

2022年の次世代自動車市場は、約1550万台、約66兆円と推定されます。自動車全体の販売台数の20%を占め、2025年には30%に高まると予測されています。種類別では、HVが約36%、PHVが約17%、EVが約46%と推定され、特にEVの増加が顕著です。中国と欧州が市場拡大を牽引しています。2030年代には全固体電池の普及によりEVの航続距離が伸び、さらなる普及が期待されます。PHVも市場の拡大が続くと見込まれ、HVはシェア低下する傾向にあります。

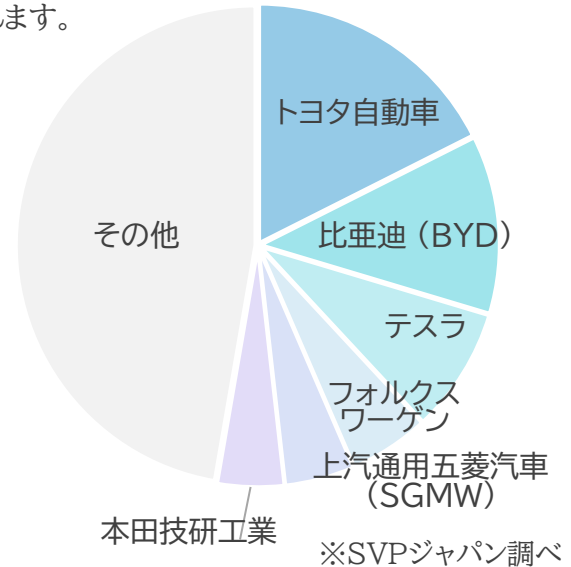
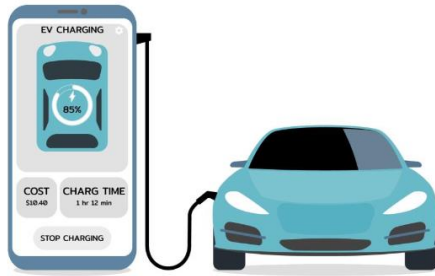
次世代自動車 販売台数・金額推移(世界市場)



※SVPジャパン調べ

IV. マーケットシェア

次世代自動車市場のマーケットシェアでは、トヨタ自動車がトップで、約95%がハイブリッド車(HV)です。中国の比亞迪(BYD)と米国のテスラがEV及びPHVで強い存在感を示しています。フォルクスワーゲンも上位にランクインしており、特にEV分野での成長が注目されます。



V. 参入企業の動向

各企業は次世代自動車市場への対応に積極的です。トヨタはHVを中心に展開しつつ、2030年までに30車種のEVを投入する計画です。BYDはEVとPHVに特化し、世界市場でのシェアを拡大しています。テスラは世界トップシェアのEVメーカーで、米国市場でのシェアが顕著です。フォルクスワーゲンはEV開発に注力し、2030年に新車販売の5割をEVとする目標を掲げています。本田技研工業は2040年までにガソリン車から撤退し、EVやFCVへのシフトを進めています。その他、多くの中国、欧米メーカーがEV市場での存在感を高めています。

VI. 業界構造

次世代自動車産業の業界構造においては、バッテリー、モーター、その他の部品メーカーが重要な役割を担っています。完成車メーカーはこれらの部品メーカーとの提携や共同開発を進めており、技術革新とコスト削減が求められています。

バッテリーメーカーには、GSユアサ、パナソニック、LGエナジーソリューションなどがあり、高エネルギー密度と低コストのリチウムイオンバッテリーの開発に注力しています。これらのバッテリーは、次世代自動車の性能と価格に大きく影響を与えるため、業界における彼らの役割は非常に重要です。

また、モーターの開発と生産には、デンソー、ボッシュ、ニデックなどが関与しています。高効率で軽量のモーターの開発は、EVの航続距離と性能向上に直結しています。これらの部品メーカーは、完成車メーカーとの連携により、次世代自動車の市場拡大に貢献しています。

次世代自動車産業における業界構造は、技術革新とコスト削減を追求することで、今後も変化し続けるでしょう。完成車メーカーと部品メーカーの協力関係が、業界の発展を支えていくことが期待されます。

本レポートの内容、画像等の一部もしくは全部の複製、無断での転載・複写をお断りいたします。



1分でわかる

SVP会員制 ビジネス情報サービス



1.ビジネス情報収集における環境の変化

環境の変化が激しく、将来の予測が非常に困難な時代に入

変化①

社会環境の変化



- ✓戦争の勃発
- ✓新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)の流行
- ✓気候変動

変化②

ビジネス環境の
変化



- ✓テクノロジーの進化
- ✓グローバル化
- ✓新世代の台頭
- ✓破壊的企業の躍進



組織的な課題に直面



2.企業が直面している3つの課題

これまで以上に、迅速で的確な情報収集・分析能力が求められています

1

幅広いビジネス 情報のアクセス

幅広い事象に関して、
スピーディーにアクセスできる
環境の整備



2

質の高い情報の獲得 (重要領域での質の担保)

信頼できる上質な
ビジネス情報を収集できる
環境の構築



3

成長が期待される 新市場の動向把握

事業機会の可能性がある全ての
市場や企業動向を認識する
ケイパビリティの有無

3.当社サービスが提供する価値



ビジネス情報に関する皆さまの課題を当社が解決いたします！

SVP会員サービス



解決① クイックリサーチ

I.

膨大なビジネス公開情報へアクセスし、スピーディーに最適な情報を提供

解決② プロジェクトリサーチ

II.

カスタム調査を通じて、質の高いビジネス情報と分析アウトプットを提供

解決③ SVPナレッジ

III.

当社が定義する、メガトレンドや注目市場の動向予測レポートを提供

4. サービス一覧



年間契約で3つのサービスをご提供します



I. クイックリサーチ

活用シーン

- ・日々のリサーチ作業をアウトソースして、分析や戦略立案など付加価値業務に注力したい。
- ・ニーズに合ったビジネス情報を、スピーディーにわかりやすくまとめて提供して欲しい。

特徴

- ✓幅広いビジネス公開情報の活用
- ✓プロのリサーチャーによるニーズ把握と最大2時間の調査
- ✓わかりやすくまとめたレポートでご報告

納期 最短2日営業日以内

III. SVPナレッジ

活用シーン

- ・メガトレンドを中心とした、将来、事業に影響を与える環境要素は何か知りたい。
- ・①Z世代、②サステナビリティ、③テクノロジー、④新興国を含む海外市場、⑤破壊的企業の動向を把握したい。

内容

- ✓SVPメールマガジン
- ✓SVPインサイト
- ✓SVP注目市場分析
- ✓SVPTrend調査

配信頻度 月1回以上

II. プロジェクトリサーチ

活用シーン

- ・公開情報では公表されていない、市場や業界、企業、消費者の情報収集がしたい。
- ・自社の事業領域に関する、質が高く、ニーズに即した情報を入手して、ビジネスに即活用したい。

特徴

- ✓広範なカスタム調査・分析
- ✓デスクリサーチ
- ✓ヒアリング調査
- ✓Webアンケート調査

納期 調査内容に応じて決定

5.導入実績



年間調査実施数
約15,000件



商用DBシステム利用
20システム



国内外企業財務情報
4,000万社以上



SVPネットワーク
世界40カ国の広がり

日本の売上高トップ100社中7割の企業でのご利用実績 導入企業600社以上





—SVP JAPANのサービスについて—

2営業日以内に調査結果をご報告

クイックリサーチ

[詳しくはこちら](#)

カスタムメイドのリサーチサービス

プロジェクトリサーチ

[詳しくはこちら](#)



—各種お問い合わせ—

資料ダウンロード

[こちらをクリック](#)



お問い合わせ

[こちらをクリック](#)



s'il vous plaît
SVP JAPAN
株式会社SVPジャパン

まずはお電話でもお気軽にお問い合わせください。
TEL : 03-3249-0771

